


press release



COLLECTION EXHIBITION

コレクション・フォーカス

世界中で愛された
Chintz—An Enchanting Cloth Beloved Around the World
魅惑の布




◎ 同時開催
Exhibition of Select Pieces + New Collection Pieces
名品 + 新収蔵作品展

フリートークデー
自由に感想を話しながら
観覧会を楽しもう！
2 | 15 (日)
3 | 15 (日)
4 | 19 (日)

2026 1 | 23 (金) ▶ 4 | 19 (日)

【開館時間】 9:00～17:00 ※金曜日は19:00(4月は20:00)まで開館 ※入場は開館の30分前まで
【休館日】 月曜日(特別展の会期中・祝日・振替休日を除く)、3月2日(月)は展示替えのため閉室
【入館料】 一般510(410)円／大学生310(250)円 ※ ()内は20名以上の団体
【縮景園共通券】 一般660円／大学生350円 ※特別展は別料金
◎高校生以下無料 ◎当館で開催中の特別展入館券にて無料でご覧いただけます。
◎障害者手帳をお持ちの方や65才以上の方、県内の大学に在学する留学生の方などは無料(1階総合受付でお申し出ください)。

 広島県立美術館 2階展示室
Hiroshima Prefectural Art Museum

1. [高地特異文更紗](部分) 17～18世紀 広島県立美術館蔵
2. [赤地ゴビ型牛文更紗](部分) 19世紀末 広島県立美術館蔵
3. [白地花鳥文更紗](部分) 18～19世紀 広島県立美術館蔵

所蔵作品展
第4期
<https://www.hpam.jp/>



【概要】

所蔵作品展第4期

「名品+新収蔵作品展」「コレクション・フォーカス：更紗 世界中で愛された魅惑の布」

1968（昭和 43）年に開館した広島県立美術館は、1996（平成 8）年に現在の建物に生まれ変わり、所蔵作品展と特別展という両輪によって美術の魅力を発信しています。

当館は開館以来、多くの方々のご協力を得てコレクションを充実させてまいりました。収集重点方針として「広島県ゆかりの美術」「1920～30年代の美術」「日本およびアジアの工芸」を掲げ、現在は総数 5,400 点を超えています。

さて、今期の所蔵作品展は、本県ゆかりの巨匠たちを一望できる「ウェルカムギャラリー」および今年、没後 30 年を迎える菅井汲^{すがい ぐみ}、2024（令和 6）年度の新収蔵作品お披露目を含む「名品+新収蔵作品展」、さらに、九州国立博物館と福岡市美術館の所蔵品も加わった「コレクション・フォーカス：更紗 世界中で愛された魅惑の布」の 4 本立てといたしました。作品が織りなす世界に心を寄せてご鑑賞ください。

今期も皆さまに感想をお書きいただき交流できるコーナーやリレートーク、インスタグラムのライブ配信といった関連イベントも開催しつつ、さまざまな角度から当館コレクションの魅力を発信します。また、今年度はフリートークデーを毎月第 3 日曜日に実施しています。

ご来館のたびに新しい美の魅力を発見し、心と癒やされる展示をめざし、努力を重ねてまいります。今後の当館の活動にもご期待ください。



名品+新収蔵作品展

第1室 西洋美術コレクションの名品から

この展示室では、1920～30年代を中心とした西洋美術をご紹介します。二度の世界大戦の影響によりめまぐるしく変化する社会のなか、さまざまな表現が誕生しました。

理性的な思考から離れ、より自由な芸術を求めたシュルレアリスムは、ヨーロッパのみならず、世界中に広く波及します。サルバドール・ダリやマックス・エルンストらは、革新的な手法による独自の表現を目指しました。

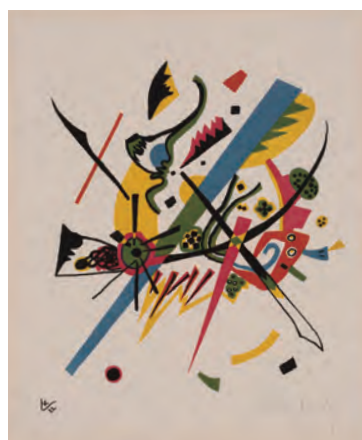
一方、20世紀前半のドイツでは、表現主義グループが次々に誕生します。エーリッヒ・ヘッケルらが所属した「ブリュッケ」は、奔放で野性的な作風で知られ、その後誕生した「青騎士」は、より精神世界へ目を向けた制作を行いました。「青騎士」の中心メンバー、ワシリー・カンディンスキーは、素早い筆跡と激しい色彩による表現を確立させ、抽象表現の先駆者とも評されます。

また、ベン・ニコルソンやヘンリー・ムーアらが参加した「ユニット・ワン」は、イギリスにおいて抽象芸術とシュルレアリスムの双方に寄与したグループとして重要な存在です。

揺れ動く混迷の時代に生まれた、多彩な世界をご覧ください。



フランシス・ピカビア
《アンピトリテ》1935年頃



ワシリー・カンディンスキー
《小さな世界》1922年



第2室 2024（令和6）年度 新収蔵作品

この展示室では、2024（令和6）年度に収蔵した作品のうち、絵画 25 点と工芸 4 点、前後期あわせて 29 点をご紹介します。

絵画では、広島県の近現代洋画史を彩る小林千古こばやしせんこや南薫造みなみくんぞう、山路商やまじしょう、高橋秀たかはししゅうの油彩画 12 点、南薫造に学んだ野見山暁治の みやまぎょうじの素描 7 点と版画 1 点、日本画では本県の歴史、文化を解明するために必要な江戸時代の画家片山守春かたやもりはる（前期）、太田午庵おおた ごあん（後期）、田村由清たむらゆうせい（後期）の 3 点、広島藩主浅野家に伝来した丹洞山人たんどうさんじんの東洋画（前期）1 点及び日本画家児玉希望こだま きぼうの素描 1 点を収蔵しました。

また工芸では、日本の近代工芸を代表する六角紫水の漆工 2 点ろっかくしすいと清水南山しみず なんざんの金工 1 点、そして本県の伝統工芸である高盛絵きんじょういつこくさいを伝える四代金城一國齋の漆工 1 点を収蔵しました。

これら 29 点のうち 24 点は寄附、5 点は購入（寄附金の活用）による収集成果です。寄附金を活用するにあたっては、「広島県ゆかりの作家の作品及び広島県にゆかりのある美術品等」を収集方針の一つとして購入候補を選定し、丹洞山人、片山守春、太田午庵、山路商、清水南山の 5 点を収集しました。

このたびの新収蔵作品を通して、広島県の文化の厚みと広がりを感じ取っていただければ幸いです。



丹洞山人《浪龍図》15-16 世紀（中国・明）



コレクション・フォーカス：更紗 世界中で愛された魅惑の布

当館では令和 5 年度より、「コレクション・フォーカス」と題して、所蔵作品の魅力を一層感じていただける特集展示を開催しています。このたびは当館の豊富な工芸コレクションより、インドで生まれた模様染めの布「更紗」を取り上げ、館蔵品に九州国立博物館ならびに福岡市美術館の所蔵作品を交え、2つの展示室にわたってご紹介します。

インド更紗は、優れたデザインと多色かつ堅牢な染色技術により、比類なき地位を築きました。古くから陸路海路を通してペルシアやエジプト、インドネシアなどへと運ばれ、17 世紀にヨーロッパ各国で東インド会社が設立されると、魅力的な交易品として世界各地に輸出されるようになります。各市場の需要に応じて作られた更紗は、それを手にした人々の心を躍らせ、新たな更紗を生み出す原動力となり、それは現代へと続いています。

本展では、まずインド国内向けの更紗を、次に東南アジアやヨーロッパ、日本などへ舶載された更紗を、そしてインド更紗に触発されて各地で生み出された更紗を展示し、3 章構成で更紗の発展を辿ります。

本展開催に当たり、貴重な作品をご出品いただきました所蔵館の皆さま、またご協力くださいました関係者の皆さまに、心より感謝の意を表します。

第 1 章 更紗のふるさと、インド

インド染色の歴史は古く、インダス文明の代表的な遺跡モヘンジョ・ダロ（現パキスタン）から、ばいせんざい媒染剤を使ったあかねぞ茜染めの木綿布が出土しています。インドでは染料と繊維を化学反応によって結びつける媒染という染色技術が発達し、古くから木綿を赤色に染めることが可能だったのです。また、防染（布に口ウや泥などを置き染料が浸み込むのを防ぐことで模様を染める方法）による、あいぞ藍染めの技法も早くから始まり、赤と青の鮮やかな色彩を特徴として、インド更紗は発展してきました。

更紗の製作地は、北西部のグジャラート地方等や南東部のコロマンデル海岸が特に知られています。主な製作技法には、竹のペンを使う手描き染めと木版を使う型染めの二つがあり、茜や藍の染料で模様染めを施した上に、さらに顔料や金銀、雲母を塗布した豪華な更紗も作られました。

更紗は衣服のほか、生活を彩る布としても活躍し、特にヒンズー教の神話や教義にもとづく図柄の更紗は、寺院で礼拝用の掛布や敷物等に用いられました。



《紺地クリシュナ・ゴビ文金更紗》
18 世紀

第2章 ① インドから世界へ、海を渡った更紗～インドネシア～

インド更紗には長い交易の歴史があり、エジプトのフスタート遺跡から、古いもので 8 世紀後半のインド更紗が発見されています。また、インドネシア・スラウェシ島トラジャに伝来したインド更紗には、14 世紀と推定されるものが含まれています。特にトラジャ伝来のインド更紗は、何世紀も前の製作当時の姿が裁断されずに保たれており、古い時代のインド更紗の全容を見ることができます。

インドネシアにインド更紗がもたらされた背景の一つに香辛料取引があります。海上交易の中継地にあたるインドネシアには、早い時期からインド、ペルシア、アラブの商人たちが訪れ、15 世紀末にはヨーロッパの商人も進出し、彼らはインドネシア特産のクローブやナツメグ等を得るために、インド更紗を交換財の一つに用いたのです。17 世紀に設立したオランダ東インド会社などは、香辛料取引を有利に進めるためにインドネシア好みの更紗をインドの職人に作らせ、こうして大航海時代以降、インド更紗は輸出先の好みを反映したデザインを展開していくこととなりました。



《藍地葉文更紗》15-16 世紀



第2章 ② インドから世界へ、海を渡った更紗～タイ、ペルシア、ヨーロッパ、日本～

17 世紀にヨーロッパ各国で東インド会社が設立されると、インド更紗は魅力的な交易品として世界各地に輸出されるようになりました。続いては、タイ（シャム）、ペルシア、ヨーロッパ、そして日本に舶載されたインド更紗をご覧ください。

タイ向けにはクルアイチューンと呼ばれる稲穂形もしくは火焰形の伝統文様、ペルシア向けにはミヒラブ（礼拝の方向を示すアーチ）やペルシア絨毯に見られるメダイヨン文様、ヨーロッパ向けには白地に華やかな花樹文様というように、いずれも各地の伝統や嗜好を踏まえたデザインがなされており、輸出先の注文に応えたインドの職人の技量の高さと、柔軟な生産体制があったことがうかがえます。

また、日本にも多様なデザインのインド更紗がもたらされました。ここでは着物や茶道具、掛軸を納める箱などに仕立てられた作品を展示し、インド更紗が日本でどのように受容されたのか、その一面をご紹介します。



《格子紺更紗間着》17-18 世紀
九州国立博物館蔵〔前期〕
出典：ColBase(<https://colbase.nich.go.jp/>)



《伝・因陀羅筆「芦葉達磨図」付属
白地籠目文様更紗掛軸箱帙 浅野家旧蔵》17-18 世紀
福岡市美術館蔵〔後期〕

〔前期〕 1月23日（金）～3月1日（日）
〔後期〕 3月3日（火）～4月19日（日）
※前期と後期で展示入れ替えをします



第3章 各地で花開いた更紗

インド更紗の伝播と流行は、世界各地の模様染めが発展する原動力にもなりました。

ヨーロッパの更紗は、まず木版捺染^{なっせん}によりインド更紗を模倣することから始まりました。そして、18世紀半ばに銅版捺染を導入、18世紀後半にはローラー銅版捺染を完成させ、さらに19世紀半ばに合成染料開発に成功して、新たな模様染めの世界を開きます。産業革命で大量生産された木綿にプリントしたヨーロッパ産の更紗は、インド更紗に代わって世界の市場を席捲するようになりました。

一方、江戸時代の日本でも、インド更紗を真似て和更紗が作られました。主に顔料捺染だったため堅牢度は低いものの、風呂敷や布団地等に用いられて、人々の生活を彩る一端を担いました。

また、インドネシアで作られている更紗・バティックの中には、インドネシア向けインド更紗とよく似た模様や意匠構成のものが見られます。バティックは2009年にユネスコの無形文化遺産に認定され、インドネシアの文化的アイデンティティの中核をなす重要な存在となっています。

インド更紗は種となり、各地でさまざまな花を咲かせたのです。



《西洋更紗裂（人物建物図更紗）》
フランス・ジュイ、18世紀後半
九州国立博物館蔵〔前期〕
出典：ColBase (<https://colbase.nich.go.jp/>)



《志野宝珠香合付属 片身替更紗包裂》
紋尽文様部分：インド・コロマンデル海岸 17 - 18 世紀、
亀甲文様部分：日本、19 世紀／仕立て（日本）19 世紀
福岡市美術館蔵〔後期〕

〔前期〕 1 月 23 日（金）～3 月 1 日（日）
〔後期〕 3 月 3 日（火）～4 月 19 日（日）
※前期と後期で展示入れ替えをします



【ウェルカムギャラリー】

当館では、リニューアルオープン 25 周年を機に、令和 3 年秋に新たな展示コーナーとしてウェルカムギャラリーを設けました。皆さまへの歓迎の気持ちと、「多くの方々の美術への誘いとなるように」との願いを込め、この場所を「ウェルカムギャラリー」と命名しました。当館の顔ともいべき大理石に囲まれた展示室で、分かりやすい作品解説をご用意しています。また、当館の成り立ちをご紹介する動画を展示室の入口で上映しています。

本展では、「これが、県美の広島愛」をテーマに、広島県ゆかりの著名作家である、洋画家のこばやしせんこ みなみくんぞう あいみつ小林千古・南薫造・靨光、日本画家のこだま きぼう おくだ げんそう ひらやま いくお児玉希望・奥田元宋・平山郁夫、彫刻家のひらくしてんちゅう えんつば かつぞう平櫛田中・圓鐸勝三、ろっかく しすい しみず なんざん いまい まさゆき工芸作家の六角紫水・清水南山・今井政之の作品を一堂に展示します。作家を育んだ広島という地域の特性や、作家の広島への想いを伝えるエピソードと合わせて、当館が誇る名品の数々をご覧ください。

また、1 階図書室では美術をテーマにしたマンガコーナーを設けるなど、多くの方々に美術に親しんでいただく場をご用意しています。

美術が好きな方も、これから好きになる方も、どうぞお気軽にお楽しみください。



press release



【関連イベント】

■美術講座「更紗、世界中で愛された魅惑の布」

日時：3月15日（日）13：30～14：30

場所：地階講堂

講師：岡地 智子（当館主任学芸員）

※聴講無料 ※要事前申込（電話 082-221-6246）

■ギャラリートーク「更紗、世界中で愛された魅惑の布」

日時：1月30日（金）15:00～

場所：2階展示室

講師：岡地 智子（当館主任学芸員）

※要入館券、会場（3室入口）でお待ちください

■インスタライブ配信

①新収蔵：2月10日（火）17:00～

講師：隅川 明宏（当館主任学芸員）

②新収蔵：2月24日（火）17:00～

講師：藤崎 綾（当館主任学芸員）

③更紗：3月3日（火）17:00～

講師：岡地 智子（当館主任学芸員）

④更紗：3月17日（火）17:00～

講師：岡地 智子（当館主任学芸員）

公式インスタグラムはこちらから

公式インスタグラムはこちら



press release



■フリートークデー

日時：2月15日（日）、3月15日（日）、4月19日（日）9:00～17:00

子供も大人も自由に感想を話しながら気兼ねなく展覧会を楽しんでいただけるよう、フリートークデーを実施。当日は下記イベントも併せて行います。

●対話によるギャラリートーク（定員8名）

日時：2月15日（日）13:00～14:00

所蔵作品展に出品中の作品から、学芸員が選んだいくつかの作品をみんなでお話ししながら鑑賞します。

講師：山下 寿水、隅川 明宏（当館主任学芸員）

※事前申込制 ※要入館券、2階展示室入り口にお集まりください

●作品を探しに行こう！

当館所蔵品の一部がプリントされた缶バッジを配布します。

どの作品か、展示室に作品を探しに行こう。

先着：30名（各日）

※事前申込不要 ※要入館券

フリートークデー

2 | 15 日

3 | 15 日

4 | 19 日

自由に感想を話しながら
展覧会を楽しもう！

press release



【媒体掲載用の画像提供について】

※いかなる場合も本プレスリリースからの転用はご遠慮ください。

※都合により出品作品が異なる場合がございます。ご了承ください。

※画像については提供が可能です。掲載の際に画像が必要な場合は、当館へお問い合わせください。

※画像掲載の際には、画像とテキストが掲載されたレイアウト原稿を事前に当館へ提出していただき、
1週間程度お時間を頂きます。ご了承ください。

※展示室内での筆記具の使用は鉛筆のみでお願いします。（ボールペンなど使用不可）

問い合わせ先

広島県立美術館

〒730-0014 広島市中区上幟町 2-22

TEL.082-221-6246 FAX.082-223-1444

E-mail iroeuma2@gmail.com

担当 学芸課 神内 有理

総務課 広報担当 一色 直香

公式 SNS はこちらから

